

中学校区におけるめざす子ども像
人と人との交わり、つながりの中で、【人間性豊かな心】、【たくましく生きる力】をもつ子 ～明るく元気・自ら学ぶ・仲良く助け合う～

堺市立 庭代台小学校
校長 中島 浩恵

令和6年度 重点目標
・「子どもの笑顔を大切に『人が育つ』『人と育つ』学びの場の充実」 — みんなそれぞれ でもひとつ —
・子どもたち、保護者、地域との信頼関係を大切に — 教育は、「深い子ども理解」「保護者理解」「地域理解」から —

【確かな学びの現状】
堺市児童生徒学習・生活状況調査において、「学びに向かう力・人間性等」に関する26の質問項目の内、20項目がR4年度よりも上がっていた。「読書」「計画を立てて勉強」「ニュースなどに興味」は、R5堺市肯定的回答率、R4本校肯定的回答率よりも5ポイント以上高いが、「主体的に学習に取り組む(調整する力)」「学びを律する(学習への集中力)」がR4年度よりも5ポイント以上下回った。また、全国学調から記述問題の無回答率が大阪、全国平均と比べても高い。
この現状から、子どもの事実から学ぶ授業づくりに学年やメンターチームで取り組み、教職員の指導力向上をめざす。また、「書く力」の育成のために無条件の作文や一定条件での作文指導を行う。

【豊かな心・健やかな体の現状】
・新体力テストより、投げる・走るの運動のみ高い数値でその他の項目の跳ぶ・切り返す・持続する・筋力を使う運動については低い数値だった。
・運動力向上の根幹は日々の授業づくりと捉え、手引書を基にした体育の授業づくりに取り組む。運動量の確保と多様な動きの習得ができる体育の授業を行う。
・昨年度に続き、考えて行動できる子どもの育成のために4つの重点目標に取り組む。
・授業で仲間と共に学び、学級活動で係活動やみんなで遊ぶことから人を大切にすることを養う。
・縦割り活動での異学年交流に取り組んでいく。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～10月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
基礎基本の定着	確かな学び	◎学びに向かう力の育成 【研修】【図書】	●自ら計画を立てて、学習に取り組む力の育成 ・家庭学習、自主学習を推進する。 ・各教科と生活科、総合的な学習の時間、行事等の関連を意識した授業づくりを行う。	・個々の児童の学習状況の指導と評価の共有。	・児童が作成した学習計画の進捗状況の共有	・学期毎	A ・日々の家庭学習、夏休みの家庭学習を「子どもが学び方を考える機会」として設定した。また、その後、「自らの学びをふりかえるアンケート」を実施した。	B ・日々の家庭学習、夏休みの家庭学習等で「子どもが学び方を考える機会」を設定した。また「自らの学びをふりかえる学習アンケート」を3回実施し、子どもの意識の変容を把握できるようにしたことで児童に対する指導と評価に生かすことができた。 【アンケート肯定的回答率】 ・勉強開始時に計画を立てている。(3年～6年)約79% ・勉強時に自分で決めた計画に沿って行っている。(3年～6年)約78%	A ・取り組み始めた年度であるという難しさの中で、取り組みを進められている。次年度は今年度の取り組みをふまえて、いろいろと試していただきたい。
			●読書教育の推進 ・週に2回、朝の時間を活用し、読書を実施する。 ・司書教諭、学校司書、図書ボランティアが連携して学校図書館を核として読書環境づくりを進める。 ・図書委員会と図書ボランティアの共同イベントなど、協働した取り組みを作り出し、読書を通じて交流を楽しむ環境づくりを行う。	・学校教育アンケート →肯定的回答8割以上 ・学校図書館の休み時間来館者数 →年間1900人以上	・学校教育アンケート ・取り組み実施状況	・年度末	B ・図書ボランティア主催のイベントポスターの作成、アナウンスを図書委員会が担当して開催し活用に向けた取り組みを進めた。 ・図書ボランティアと学校司書、司書教諭での打合せや連絡ノートで連携し、協働して図書館内の掲示物作りや蔵書管理を行っている。 【肯定的回答率】 ・本を読むことは好きだ。約72%	B ・在校生向けに2回、新入生向けに1回の図書だよりを発行した。児童自身と児童への影響も多い保護者の読書に対する意識も高めたいと思い、読書の効果についても示した。新刊図書の紹介も行った。 ・ボランティア、図書委員会で図書室来館を促すイベントも行き、低学年を中心に図書室に親しんでいる。高学年は二極化している。読書の魅力を感じられるような仕掛けが必要だ。保護者への読書推進も継続強化することで、児童が読書に親しみ、興味関心を広げ深められるようにしたい。 【肯定的回答率】 ・本を読むことは好きだ。児童・全校→約74%・1～3年→約83% ・子どもは本を読むことが好きになってきている。保護者:約63% ・休み時間の来館者数→2231人(2月21日時点)	A ・低学年の「本を読むのが好き」と答えた児童が、高学年になっても「本を読むのが好き」と答えられるように、読書環境をさらに整えて、子どもの読書意欲をのばしてもらいたい。
授業改善	確かな学び	◎児童が学びに向かう授業づくり 【研修】	●子どもの実態に応じた授業づくり ・つながりシートによる学習計画を作成し、指導と評価の一体化を行う。 ・学びに向かい、学びがつながるICT活用を行う。 ●校内研修の充実 ・学びに向かう姿を明確化する。 ・教員自身の学びのふりかえりを共有する。 ・全教員による研究、公開授業を実施する。 ・メンターチーム制により学びあう。	・各学年の児童の実態に即した指導と評価の共有 ・学校教育アンケート →肯定的回答8割以上	・つながりシートの項目 ・学校教育アンケート	・毎月 ・年2回	B ・「自立した学習者」の育成に向けて、各学年が具体的に明確にした「学びに向かう姿」の育成に向けて「つながりシート」を活用しながら、取り組んだが、「シート」を書き込むことが目的化しており、こどもの姿と授業・行事の関連をより意識できるように「シート」を改善する必要がある。 また、全教員による研究、公開研究授業の中で、「各教科の見方・考え方」に着目し、子どもの姿をもとに話し合い、日々の授業を見つめなおしている。 【肯定的回答率】 ・わからないことがあった時、やり方をかえて、ちがう方法で考えようとしている。約74% ・友だちに自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞いたりしている。約89% ・最初に計画を立ててから始めている。約75% ・自分で決めた計画に沿って行っている。約80%	B ・「自立した学習者」の育成に向けて、各学年が具体的に明確にした「学びに向かう姿」の育成に向けて「つながりシート」を活用しながら、取り組んだが、「シート」に書き込むことが目的化しており、こどもの姿と授業・行事の関連をより意識できるように「シート」を改善する必要がある。 また、全教員による研究、公開研究授業の中で、「各教科の見方・考え方」に着目し、子どもの姿をもとに話し合い、日々の授業を見つめなおすことで授業改善につなげることができた。 【肯定的回答率】 ・わからないことがあった時、やり方をかえて、ちがう方法で考えようとしている。約83% ・友だちに自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞いたりしている。約86% ・最初に計画を立ててから始めている。約79% ・自分で決めた計画に沿って行っている。約78%	B ・その時間の授業だけで評価できないことも、ノートや宿題等で子どもの学ぶ姿勢やつまずくところがどこかを教師が発見し、改善につなげてもらいたい ・子どもが感じている気持ちに寄り添って、取り組んでもらいたい。
			●仲間と自分を大切に、誰もが居場所がある集団作り ・各学年の実態に応じ、係活動などの自治的な活動を取り入れる。 ・休み時間にみんな遊びを行ったり、特別活動の時間に話し合い活動を行ったりするなど、学級でつながる時間を確保する。	・学校教育アンケート →肯定的回答8割以上	・学校教育アンケート ・こころアンケート	・年2回 ・毎学期	B ・各学年、各学級で係活動や会社活動などの創意工夫をこらした取り組みを行っている。それらの取り組みの中で児童相互の助け合いや支え合いの心の育成、そして個性の伸長がはかられている。 ・みんな遊びの設定も活発で、学級のみならず遊びを通して居場所づくりが行われている。 【肯定的回答率】 ・自分には良いところがある。約78% ・役割を一生懸命を果たしている。約89% ・友だちを大切にしている。約96%	B ・自身の役割や、周囲の友だちに関しては大切と心得ていることがわかったが、自分自身を大切にすることに成長の余地を残した結果となった。自尊感情を高められる取り組みを模索していきたい。 【肯定的回答率】 ・自分には良いところがある。約76% ・役割を一生懸命を果たしている。約91% ・友だちを大切にしている。約97%	B ・「友だちを大切にしている」の肯定的回答が非常に高く、居心地のよい学校、学級になっていることがうかがえる。一方、「自分には良いところがある」の肯定的回答が伸び悩んでいるところについて、今後の取り組みを期待したい。
豊かな心・健やかな体	確かな学び	◎仲間を認め、自分を大切にできる子どもを育て、みんなが安心を感じられる集団作り 【人権・生指】	●ジェンダー平等に関する理解の推進 ・全学級で性差に関する授業を実施する。 ・教職員が高い意識を持つとともに、全ての教育活動を通じて児童に伝える。	・学校教育アンケート →肯定的回答8割以上	・学校教育アンケート ・こころアンケート	・年2回 ・毎学期	A ・全学年でジェンダーに関する授業を行っている。意識が高まっている。 ・授業後のアンケートの掲示によって、児童、保護者、教職員の意識も高まっている。 【肯定的回答率】 ・男、女らしくではなく、自分らしくの方がよい。約93%	A ・今年度も昨年度に引き続き、各学年に応じたジェンダー平等に関する授業を行った。また、男女混合の名簿や整列、性差に関する日ごろからの指導についても、各教員の意識が高まっており、それが児童に伝わっている。 【肯定的回答率】 ・男、女らしくではなく、自分らしくの方がよい。約92%	A ・どの学年でも取り組まれていることで、子どもたちへの教育効果も高くなっている。
			●たわわり活動の充実 ・異学年の児童が集まり、交流を深める。 ・各学年の集団の中での役割を考え、行動する。	・学校教育アンケート →肯定的回答8割以上	・学校教育アンケート ・こころアンケート	・年2回 ・毎学期	A ・6年生を中心とし、定期的にたわわり活動が行われている。今年度は大縄跳びを通常の取り組みとし、異学年での活発な交流が見られる。 【肯定的回答率】 ・いろいろな学年の友だちと関わることは楽しい。97%	B ・今年度は年間を通して大縄跳びを主軸として活動に取り組んできたこともあり、休み時間に学年をこえて大縄跳びやその他遊びに興じる姿が見られた。今後またたわわり活動は大切にしていきたい。 【肯定的回答率】 ・いろいろな学年の友だちと関わることは楽しい。約87%	A ・参観した時の様子を見る限り、どの子も楽しそうにしている姿が見られた。異学年交流は地域で育つ子どもたちにとって、とても貴重な活動なので、肯定的回答率が伸び悩んだ結果をふまえて、時間帯や内容などを工夫しながら、継続した取り組みを期待したい。

心の教育の充実	◎考えて行動できる子どもの育成をめざす生徒指導【生指】	●あいさつ・廊下歩行・靴ならべ・清掃 ・児童活動との連携で、毎学期それぞれに焦点をあてた啓発を行う。	・学校教育アンケート ・生活目標チェック →肯定的回答 8割以上	・学校教育アンケート ・生活目標チェック	・年2回 毎月	・児童活動が主となって、日々様々な啓発活動に取り組んでいる。夕礼時に生徒指導より、気になった点や重点目標についての話を全校児童に対して話す機会を設けている。 【肯定的回答率】 ・廊下歩行、靴並べ等の学校の決まりを守る。約68% ・そうじを熱心にする。約90% ・進んであいさつができる。約82%	B 【肯定的回答率】 ・重点目標の3項目全てで目標の8割を達成することができた。しかし、児童の意識と教職員の意識とで多少の乖離があるため、大人の目から見ても課題を明確にクリアしているとは評価ができるように、来年度は取り組んでいきたい。	A ・意識の違いがあるが、子どもはその時々々の場所や相手を理解していることがアンケートにあらわれているので、評価してよい。
		●いじめ防止の取り組み ・全学級での啓発授業を行う。 ・夕礼の中で全体に対し講話を行う。 ・こころアンケートの実施、iシステムの活用等を通して、早期発見、早期対応、未然防止に努める。	・学校教育アンケート →肯定的回答 8割以上	・学校教育アンケート ・こころアンケート	・年2回 毎学期	・各学級でのいじめをテーマにした授業の実施、そして月1回の児童情報交換会での情報共有を行っている。 【肯定的回答率】 ・子どもは毎日学校に楽しく行っている。約90%	A ・年間を通し、情報交換会やケース会議、いじめ対策会議を重ねいじめの早期発見や、事後の対応に結び付けることができた。職員がいじめに対する意識も約96%と高い数値であった。今後も継続していきたい。 【肯定的回答率】 ・子どもは毎日学校に楽しく行っている。約89%	A ・登校時、楽しそうに登校している姿が多くみられる。今後も子どもたちが楽しく通える学校であってほしい。
	◎特別支援教育の充実【特支】	●特別支援教育の充実 ・配慮を要する児童への指導体制(通級指導教室の活用)を広げる。 ・専門機関との連携を行う。 ・通級指導教室の取組を職員で共有する。 ・職員研修(ティーチャー・トレーニング)を年8回行う。	・PT評価ツール「理解対応」、「肯定的教育」 →向上	・PT評価ツール	・年2回	・共有シートを活用し、月2回スクールカウンセラーと連携を行っている。 ・職員研修(ティーチャー・トレーニング)を6回行った。	B ・スクールカウンセラーの利用により、児童または保護者の心のケアができ、いじめや不登校などの対応にも役立った。また、教職員にとっても、専門的なアドバイスを受けることにより、児童への対応に役立った。 ・ティーチャートレーニングを受講することにより、より最適な児童への対応を身に付けた。感情的な指導から、児童の行動に着目して、好ましい行動を増やしていく指導へと意識を変えていっている。 【PT評価ツールを取った結果】 ・「理解・対応」が69%から89%向上。 ・「肯定的教育」が92%から95%に向上。	A ・専門機関の利用や研修を重ねることで、肯定的回答が向上している。特別支援教育の充実に向けて、計画的、かつ個に応じた取組・対応をされている様子うかがえる。
		●障害理解教育の推進 ・人権教育計画に基づいた障害者理解教育を実施する。 ・「堺ゆめ授業」を実施する。(活躍する障がいのある方の招へい)	・学校教育アンケート →肯定的回答 8割以上 ・児童の学習状況	・学校教育アンケート ・児童の実態	・年2回 実施後	・6月の全校集会で、わかば学級とチャレンジルームの紹介をかねて障害者理解教育を行った。 【肯定的回答率】 ・わかば学級、チャレンジルーム、日本語教室を利用できることを知っている。約89% ・どの子も楽しく生活するためにどうするかを学習した。約82%	A ・日本語教室を含めた、特別支援教育への啓発により、自分に合わせた学習の場があることや、そこで学習する友だちへの思いが育った。 【肯定的回答率】 ・わかば学級、チャレンジルーム、日本語教室を利用できることを知っている。約91% ・どの子も楽しく生活するためにどうするかを学習した。約82%	A ・それぞれに対応できる職員が配置されて、適切な指導をされており、対象の児童を含め、安心して学習できている。
豊かな心・健やかな体	◎運動を通して、体全体を動かし、体力向上をめざす ◎多様な運動を身ににつける【体育】	●体育授業の充実 ・児童の実態に応じた授業を実施する。 ・学習記録・振り返りカード等を共有する。	学校教育アンケート →肯定的回答8割以上	学校教育アンケート	・年2回	・日々の体育の授業で、児童の実態に応じて題材等を工夫して授業をしている。 ・各学年、体育で2領域の授業実践案の共有を進めている。 【肯定的回答率】 ・体育でさまざまな動きができた。約83% ・体育の授業で体を動かすことが好きだ。約77% ・体育の授業で友達と運動するのは楽しい。約90%	B ・以下の3項目について、肯定的回答率の向上が見られた。表現運動発表会等を通して、日々の体育の授業で児童の実態に応じた授業を実践していることが考えられる。 ・各学年で水泳領域を中心として授業実践案を共有している。 【肯定的回答率】 ・体育でさまざまな動きができた。約88% ・体育の授業で体を動かすことが好きだ。約84% ・体育の授業で友達と運動するのは楽しい。約94%	A ・参観で見た表現運動発表会では、自分たちが考えたダンスをいきいきと発表していた。またグループごとに違いもあり、見ていておもしろかった。
		●業間体育の活性化 ・休み時間を活用し外遊びを推進する。 ・授業で身につけた運動や体育カードを活用する。	学校教育アンケート →肯定的回答8割以上	学校教育アンケート	・年2回	・体育委員会を中心に、休み時間に児童が進んで運動に取り組めるような企画を計画している。 【肯定的回答率】 ・休み時間には外遊びしている。約56% ・体育の授業のことを授業外でしている。約51%	B ・休み時間を利用して体育委員会で「体力向上ビンゴ」に取り組み、多くの児童が参加した。しかし、「休み時間に外遊びをしている」の肯定的回答率は低くなっている。単発的な取り組みであったので、継続的な実施が数値の向上につながるのではないかと考える。 ・「体育の授業のことを授業外でしている」については、肯定的回答率の向上が見られた。縄跳びを中心として、休み時間にも取り組みやすい運動を授業で行ったことが考えられる。 【肯定的回答率】 ・休み時間には外遊びしている。約53% ・体育の授業のことを授業外でしている。約60%	A ・限られた環境の中で、工夫して行っている様子が見られる
食育の推進	◎食に関する知識の習得と、生活習慣の確立【給食指導】	栄養教諭と連携し、学校給食を活用した食に関する指導を実施する。	学校教育アンケート →肯定的回答 8割以上	・学校教育アンケート	・年2回	・各学年の実態に応じた食育授業を栄養教諭と連携して順次行っている。 【肯定的回答率】 ・『食』について知ったことを、家で話したり、やってみようとしていたりしている。約67%	A 栄養教諭による食育授業を全学年で実施できた。各学年、年に1～2回ずつの実施だが、それぞれの学年の実態に応じ、児童の生活の中にある「食」についての授業を計画、実施し、学校教育アンケートの肯定的回答率の向上が見られた。特に、後期に食育授業を実施した低学年での伸びが大きく、栄養教諭による食育の授業の成果が表れたと考えている。 【肯定的回答率】 『食』について知ったことを、家で話したり、やってみようとしていたりしている。全体約67%→約76%、低学年約53%→約81%	A ・人的措置がされ、明確に位置付けて実施したことにより、肯定的回答が大幅に上がっている。来年度以降も連携を継続してほしい。
つながる教育・ひろがる教育	◎9年間の成長を共有するとともに、子どもの事実をもとにした学びを共有【小中一貫】	●小中で「めざす子ども像」の共有 ・全職員が1回以上積極的な授業参観を行う。 ・子どもの事実をもとにした学びあいの場を共有したり、意見交換したりする。	・小中お互いに授業を参観し、子どもの事実から「めざす子ども像」に向けた系統的な取り組みの共有	・小中お互いに授業を参観、協議会での共有	・毎回の公開授業	・毎回の研究授業の日程を共有し、中学校教諭が小学校6年生の研究授業や日々の授業風景、給食の様子などを参観した。また、小学校からも中学校の研究授業を参観し、小中、互いの研究授業を通して、子どもの学ぶ姿を実際に参観することができた。継続的に他学年の研究授業の参観や協議会への参加はできていが、今後も可能な限り交流を図っていく。	A ・本校の研究授業に中学校教諭や御池台小学校教諭が参観し、協議会にも参加した。また、3校の学校教育目標、研修の取り組みを共有しながら3校の共通項を見出し、来年度の方向性を共有することができた。	A ・とてもよい取り組みだと思うので、ぜひ継続してほしい。
	◎安心、安全に繋がる地域との連携【幼小連携】【教務】	●幼小連携 ・ワクワク広場などを実施する。 ・相互連携による情報共有を行う。 ★登下校時の見守り活動	・実施後の意識調査	・児童の実態	・年度末	・11月にひなごっこも園の5歳児との交流を行った。1年生がお店屋さんになり、5歳児さんに年長者としての接し方、やさしい言葉かけを心掛けていた。	B ・わくわくひろばや授業の参観などの交流を行い、1年生は上級生として園児に優しく接することができた。年長児は、小学校への期待を膨らませていた。	B ・登校時の見守りの時には、元気に挨拶をしてくれている。

校長より(年度末)
自ら学びを進めるこどもが育つように、教員も指導観や研修観をアップデートして、こどもの実態を大切に授業づくりを進めてきました。学校協議員の皆様や保護者の方々、こどもの声、教職員のふりかえりをふまえて、課題の部分は可能性ととらえ、これからも教育活動の改善に努めてまいります。

学校関係者評価者から(年度末)
・先生方が作ってきておられる安心できる学校という場だからこそ、日々の授業の中に、出前授業の機会を増やし、本物や地域社会とのつながりを意識してもらえたら、子どもにとっても貴重な機会となるし、先生にとってもよいことだと思います。